



## きめ細かな温度管理で健苗育成！

水稻は種作業の時期を迎えていますが、温度の変化が大きい時期になります、生育ステージにあわせた育苗管理を心がけましょう。

### ～水稻育苗管理のポイント～

#### は種(定置)～出芽

- ・は種前に必ずは種機の試運転を行い、は種量を確認しましょう。
- ・は種した育苗箱を納屋などに保管する際に、低温の恐れがある場合は毛布などをかけて保管しましょう。
- ・置床鎮圧育苗を行う場合、置床が十分に乾いてから鎮圧作業を行いましょう。
- ・育苗箱を置床に並べる際は、踏み板等を用いて育苗箱の底面が置床に密着するようにしまししょう。
- ・かん水は、出芽まで育苗土が乾かないように育苗箱の下までしみわたるように行いましょう。
- ・定置～出芽までの温度管理は、籾の位置で30～32℃を目安とし、べたがけやトンネル被覆資材で保温しまししょう。
- ・ハウス内の温度は、35℃以内とし、高温による苗のヤケに注意しまししょう。
- ・べたがけ被覆資材は、出芽が70%程度になったらはがしまししょう。
- ・出芽が長引く場合は、被覆資材をはがして換気を行いましょう。

**疲れた時は十分に睡眠をとり体調を整えましよう！**